

スポーツ人文・応用社会科学系

氏名 よし しば み き 紀 教授



主な研究テーマ

- 英語の授業におけるポートフォリオの活用
- トップアスリートの海外遠征用英語学習ソフトの開発

平成27年度の研究内容とその成果

1) 小中高校の教育内容を定めた学習指導要領の改定案が固まり、平成28年8月1日新聞等で紹介されました。中でも、小中高の全教科にアクティブ・ラーニング（能動的学習）を導入するなど、時代の変化に応じた新しい学びの姿が打ち出されました。教育界では、90年代に講義中心の教育からアクティブ・ラーニング中心の教育にシフトしたことにより、評価でも大きな変革（Paradigm Shift）が起こったと言われます。講義中心の教育では「伝統的評価」「成績をつける評価」でしたが、学習者が教育目標を達成しているかを見る「教育目標中心の評価」へ、学習者の「学習を促進する評価」「代替的（新しい）評価」へ変わってきています。この代替的評価に、パフォーマンス評価、プロジェクト・ワーク、デモンストレーション、ルーブリックを使った評価、自己評価、グループ評価等あります。

平成27年度、この代替的評価のポートフォリオを授業に導入することで、学生の英語学習を支援できないか調査しました。きっかけは平成26年3月東京外国語大学で

開催されたポートフォリオに関する国際シンポジウムで、国内の大学の授業でポートフォリオを導入し教育効果を上げている事例が紹介されたのです。

ポートフォリオは、主に米国で標準テストに代わる「評価」の手段として導入されましたが、「教授学習」の手段としても使用され、学習者には自律的な学習能力を伸ばす指針となり、教師には適切な教授・指導の枠組みをもたらす有効な手段として注目されてきました。特にポートフォリオが教授学習手段として注目されるようになったのは、欧州評議会が「Council of Europe, Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠、CEFR、2001）」の枠組みと同時に「The European Language Portfolio（欧州言語ポートフォリオ、以下ELP）」が提案されてからで、ELPによる学習者の自律育成プログラムの成功がその背景にあったようです。投野（2013）は、ELPについて「学習者の自律と生涯教育、異文化コミュニケーションの促進を目的とした、いわば学習者の学習記録ノート（ポートフォリオ）であり、

学習者が到達目標を決め、授業活動、授業外活動等によって自己の外国語学習を内省的に省察、評価しながら外国語学習が続けられるよう意図されたものだ」と述べています。

ポートフォリオの定義はいろいろありますが、筆者は「学習者が学習目標を設定し、学習過程を振り返りながら言語学習について授業中に記録する英語学習記録」と定義します。またポートフォリオ評価については、学生がポートフォリオを用いて自らの学習状況を振り返る自己評価と、教師が学生のポートフォリオを読んで学習状況を見取る他者評価の2つと捉えます。

今回は、1年生の習熟度別クラスの下位群の授業に実験的にポートフォリオを導入し検証しました。授業の受講生24名が回答しましたが、その内訳は好意的と解釈できる記述が75%（18名）、非好意的と解釈できる記述が25%（6名）でした。特に、学生のコメントが多く寄せられたのが目標設定に関するもので、この好意的な回答傾向から、到達度テストのみの評価とせず、ポートフォリオを活用した授業を提供することで、学生の目標設定に対する意識を高めることができる可能性が考えられます。次に多く挙げられたのが、授業の振り返りや過去の学習状況の把握など学習過程の「振り返り・内省」に関するものでした。その他、ポートフォリオ作成による教員とのコミュニケーションや動機づけへの効果を挙げた学生もいました。

英語の授業へのポートフォリオの導入

は、特に学習者自ら目標を設定し、授業でその目標達成をめざし取り組む自律的学習への動機づけ効果の可能性が高いと考えられます。

2) 平成27年度は、勤務校のバレーボール部女子チームがカナダへの海外遠征およびホームステイを予定していました。その遠征に向け、遠征前に他の英語教材を参照しながら遠征に持参できる会話帳を作成し、それを使って12月指導しました。帰国後、選手を対象に海外遠征時の英語使用に関するアンケート調査を実施しましたが、参加者23名のうち17名から回答があり、現在その調査分析を行っています。

これからの研究の展望

1) 今回ポートフォリオを導入したクラスは、文法項目主体に作成されたテキストを使用し、リスニング、会話、文法、応用会話という内容でした。英語の4技能のうちどの能力育成にポートフォリオが効果的なのかは調査していません。ポートフォリオに適した授業、適さない授業が存在する可能性もあるので、今後の課題とします。また、ポートフォリオを導入した当初、調査・研究は計画していなかったため、アンケート調査は不十分なものでした。今後ポートフォリオ作成に関する質問項目を増やし、より詳細な調査を行う必要があります。

2) 平成27年度できなかった水泳に関する調査・情報収集を今後実施する計画です。